



ボランティア活動に思う

今年の冬は、日本海側の地域で観測史上最高の積雪量を記録し、毎日のように新聞やテレビでその様子が報じられていました。その地域の雪との戦いは、私どもの地域では考えられないような、大変なものだと思います。自然のなすこととはいえ、特に高齢で一人暮らしをしているお年寄りには、やり場のない気持ちを抱え、数メートルにまで積もった雪下ろしや除雪作業など、危険の上なく、また行政の対応もままならない状況でありました。そんなときに、全国からのNPOや大学生など、多くのボランティアによつて雪かきなどが手伝われた、とのニュースがたびたび流れました。ありがたい出来事だと、ほつと胸をなで下ろしながら、久し振りに私の心の中は、充実した気持ちでいっぱいになりました。自分の利益につながるらない、代償を求めない社会奉仕活動——。私の人生の指針である「他人（ひと）のためにになる人間になれ」「人はパンのみに生きるにあらず」。これらが、生き方として間違っていないのだ

と、あらためて感じました。霧島山新燃岳の爆発的噴火。降灰が数十センチも積もる屋根や道路。そこにも、善意の手が差し伸べられ、他人を思いやる、他人のために役に立ちたいという、日本人の美しい心を感じました。旭市でも、いろいろなところで、ボランティア団体の皆さんに応援をいただいています。市内で登録のある団体だけでも50余りが組織され、そのほか、事業ごとに各方面の皆さんに協力を仰いで、市の行事が進められているのが現状であります。先日第22回旭市飯岡しおさいマラソン大会、500人にも及ぶ関係者やボランティアの協力により、参加した3、200人が事故もなく、大成功で終了することができました。

町の環境美化、健康・福祉のサポート、青少年の健全育成、犯罪防止のパトロール、交通、消防——。幅広いボランティア活動で、明るく、安心・安全なまちづくりにご協力をいただいている皆さんへ、心から感謝を申し上げます。